

令和4年度 学校評価（保護者アンケート集計結果）

1 アンケートの概要

(1) 対象 保護者、児童、学校職員

(2) 実施日 令和4年12月

(3) 回収率保護者

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体
在籍人数	18	35	18	26	24	38	159
回収人数	18	34	18	24	23	33	150
回収率	100.0%	97.1%	100.0%	92.3%	95.8%	86.8%	94.3%

2 評価結果（数値） ※ 肯定的回答は、評価4、3を合わせた値

4 十分にできている	3 ある程度できている
2 不十分なところが多い	1 ほとんどできていない

No	評価項目	保護者
		肯定的回答
①	学校は、学校の教育目標や経営方針について、保護者にわかりやすく伝えて いますか。	97
②	学校は、よりよい教育活動のために、工夫・改善を図ろうとしていますか。	96
③	学校（学級）は、お子さんの確かな学力を身に付けさせるために、熱心に取り 組んでいますか。	98
④	学校（学級）は、お子さんの思いやりの心や命を大切にする心を育てるため に熱心に取り組んでいますか。	97
⑤	学校（学級）は、お子さんの体力向上や健康管理について熱心に取り組んで いますか。	97
⑥	交通事故防止や防災・不審者から身を守る指導は、お子さんの安全につなが っていますか。	96
⑦	学校は、新型コロナウイルス感染予防のための環境整備や予防に十分取り組 んでいますか。	97
⑧	学校は、お子さんの好ましくない行動を適切に指導していますか。	94
⑨	授業参観や学校開放（運動会、公開日等）は、お子さんや学校を理解する場 になっていますか。	97
⑩	学校（担任）は、お子さんの学校での様子について知らせ、保護者との連携 を図る努力をしていますか。	88
⑪	学校（担任）は、保護者からの質問や相談に適切に応じていますか。	90
⑫	学校は、特別支援教育の充実に努めていますか。	95

⑬	お子さんは、楽しく学校に通っていますか。	96
⑭	学校は、いじめや不登校の早期解消に努めていますか。	91
⑮	お子さんは、授業の内容を理解していますか。	90

3 評価結果からの考察、改善案

※ 肯定的な評価 「満足、充実、達成度が高い」、「だいたい満足、達成に向かっている」の回答を合計した数値の平均

1 数値結果からの考察 ※%は小数点第一を切り捨てして表示、()内数値は昨年度比

(1) 本調査についての肯定的な評価(※)は、保護者 91%(−2) 児童 93%(+2) 職員 100%(+1)であった。いずれも高評価であったと捉えているが、保護者については、昨年度より割合が2ポイント低くなった。特に低くなった項目は、家庭学習と読書である。各家庭で進んで学習をしていると感じている保護者が77%、同じく進んで読書をしていると思われる保護者が56%である。しかしながら、児童の評価は、家庭学習、読書ともに昨年度より高い評価となった。進んで学習をしていると答えた児童は95%(+4)、進んで読書をしていると答えた児童は76%(+6)である。これは、家庭学習の手引きを配布したり、「OMO スタ週間」といった家庭学習の取組をしたりすることによって、家庭学習を頑張ったと感じている児童が多数であったと考える。

家庭学習や読書の評価について、保護者と児童の評価にギャップがあることに関しては、児童の学校での頑張りを、随時担任が保護者に伝えていくことで、家庭でも子どもの頑張りを認めてもらえるようにしていきたい。また、新型コロナウイルス感染症防止の取組を続ける中でも、学校を通常にもどすことを考え、今後も取組を更に進化させていきたい。

(2) 全般的な評価として、「学校の取組」(No.1~13)について、保護者は95%、児童は94%の高評価を得ている。しかし、「児童の実態」(No.14~19)の評価において、児童は91%あるが、保護者が82%と低い。このことは、学校としての方針、取組状況は概ね良い評価を得られているが、児童の頑張りを安易に認めない傾向があると考えられる。

今年度の結果の特徴としては、1つ目として、児童と職員の評価は昨年度と比べ高くなっている。今年度、各行事や学習形態など、ほぼ平常どおりの教育活動を行うことができた成果と捉えている。そして、児童は様々な活動に対して、精一杯学習活動を頑張る姿勢で取り組んできた。その頑張った自信が数値に表れているのではないかと考える。2つ目として、「教師の取組」に対する保護者の評価が95%と高い数値となった。昨年度に比べ、1ポイント下がっているが、一昨年度5ポイント向上したことを考えると、十分に高い数値を維持している。このことは、教師の取組が保護者に対してよく理解していると考えられる。しかしながら、昨年度より低く、また89%と90%に満たない「学校の様子を知らせ、保護者と連携する」項目に関しては、学校としては十分配信しているつもりでも、児童が確実に伝えたり、渡していないことが要因とも考えられるので、確実に伝わるよう改善を図っていく。

(3) 児童による評価で80%に届かない項目が、昨年度は3項目「家での会話」「昨年度からの変化」「読書」であったものが、今年度は、1項目「読書」のみであった。また、昨年度低く

なった「家庭学習」「規則正しい生活」「挨拶」といった、自分自身についての評価についても、向上した結果となっている。できるだけ通常の学習活動に戻した結果と考える。

読書については、80%未満ではあるが、昨年度より6ポイント以上向上している。これは、読書を奨励し、読書賞を児童に授与している成果と考える。

評価を総じて言えば、次のようになる。

「職員は、創意工夫し、児童一人一人に丁寧な指導を行う努力をしているということが、保護者にはある程度理解を得ている。児童は、ほぼ平常どおりの学校での教育活動から、自己肯定感を高くもって取り組んでいる。」

○保護者…「おおむね学校や児童の生活に満足しているが、さらなる向上を期待している。」

○職員…「学校としての目標に向かって、職員は一致団結して指導している。」

○児童…「職員の適切な指導から、めあてをもって取り組んでいる。」

4 令和5年度の経営の重点（学校評価調査結果から）

本年度の学校評価において、児童、保護者、職員の三者による評価は、全体的に概ね肯定的な結果となった。CまたはDとなった項目は、保護者1項目のみであった。この項目は、特に「次年度の経営の重点」として改善を引き続き図っていく。また、高評価であった他項目においても、よりよい学校経営を行うため、以下のような視点で次年度の経営に反映させていきたい。

（1）学校経営・運営「学校経営方針を伝え、保護者とともに児童を育てる」

…【信頼される教師集団をつくる】

「教育活動のための工夫・改善」と「教職員の教育活動への取組努力」については、保護者が前年度比-1%とはなったが97%と高評価であった。また、児童評価の「家庭で学校の話伝えていく」が前年度比+8%、「授業や行事の昨年度からの変化」が前年度比+5%と向上した。このことから、コロナ禍以前の通常の学校生活に戻りつつあると実感し、保護者は、運動会やマラソン大会、授業参観などの児童の様子を見られることから、学校が行っている工夫・改善の努力を評価していると考えられる。引き続き、児童が潤いのある学校生活を送れるような特色ある教育活動を展開するとともに、各種たよりや学校ホームページを充実させ、情報発信をとおして理解を得たいと考える。さらに、開かれた学校づくりとして、保護者との連携を密に行うために授業参観や個人面談等を積極的に実施していく。

（2）学習指導「家庭学習と読書活動の充実」

…【学習意欲を高める授業づくりと学習習慣の確立】

児童の「授業内容の理解」と「学力向上への努力」について、ともに前年度比+4%と向上し、98%、95%と高評価であった。また、「読書」については、保護者、児童ともに項目の中で最も低いですが、児童は、前年度比+6%と向上している。引き続き、「読書活動の充実」は、重点的に取り組むべきものと考えられる。読書習慣を身に付けるため、校長からの読書賞を奨励したり、図書館司書による読み聞かせなどの企画は継続して取り組んでいく。また、「わかる授業の展開」を行うことにより、児童の学習意欲は高まっていくと考えられる。家庭学習や読書は、もっと学びたいと思う児童の気持ちが大変である。そのためには、教師が研修を積み、児童が主体的に活動する授業を展開できるようにしていく。

(3) 生活指導「基本的な生活習慣と自己肯定感の高揚」…【家庭との連携と生徒指導の充実】

「教員の生活態度に対する指導」と「安全・事故防止の指導」については、保護者評価が前年度比－4%となった。「規則正しい生活習慣」や「明るく元気な挨拶」の項目では、児童、保護者ともにやや低い評価となっている。挨拶については、教職員から挨拶の指導を徹底するとともに、委員会活動をより機能させ、児童主体の活動として挨拶運動に取り組んでいく。

毎月、「生活アンケート」を行い、教育相談を充実させる。学校生活全体をとおして、互いを認め合い、励まし合う児童を育成する。登校時の児童の様子から、家庭での過ごし方について、見直しが必要である場合は、個別に指導していく。

(4) 道徳教育「思いやりの心を育む」

…【道徳の授業の充実、いじめ防止基本方針の確実な履行】

「思いやりの心や命を大切にできる心の育成」については、保護者が前年度比＋2%の97%と高評価となっている。このことは、「命を大切にできるキャンペーン」や「いじめ撲滅キャンペーン」等や、道徳の授業で心の教育を進めたこと、学習活動や行事等をとおして、友人関係をきめ細かく指導してきた成果と考える。来年度は、更に道徳の授業の充実を図り、日常的に児童の様子を観察し、認めることで、豊かな心を育てていく。また、道徳教育推進教師を中心とした研修を行い、教育活動全体をとおした道徳教育が充実するような取組を行っていく。

(5) 体力向上「進んで運動、たくましい体づくり」

…【体育の時間の充実と年間を通じた体力向上の取組】

「体力・健康への取組」については、児童評価が前年度比＋5%と向上した。コロナ禍以前の活動に戻って運動することができてきているからだと考える。今後も新型コロナウイルス感染症の拡大防止に努めるとともに、工夫ある教育活動を行う。体力テストの結果を分析し、体力向上委員会を活性化させた健康教育が行えるようにする。

(6) 環境整備「感染症予防と安全な学校生活」

…【正しい情報収集と保健、安全指導の充実】

未だ完全な収束がみえない新型コロナウイルス感染症については、これまで同様の感染対策を講じながら、新しい情報を正しく捉えて指導にあたる。また、交通事故防止、不審者対応や自然災害、SNSによるトラブル防止など、計画的な訓練や安全教室等を行い、自分の命は自分で守ることや犯罪に巻き込まれないように日頃から気を付けることなど、継続して指導していく。

